

H20年漁期のあかいか（ソデイカ）漁業について

今漁期(H20年漁期)のあかいか(ソデイカ)漁業について取りまとめましたのでお知らせします。

1 平成20年漁期の漁況

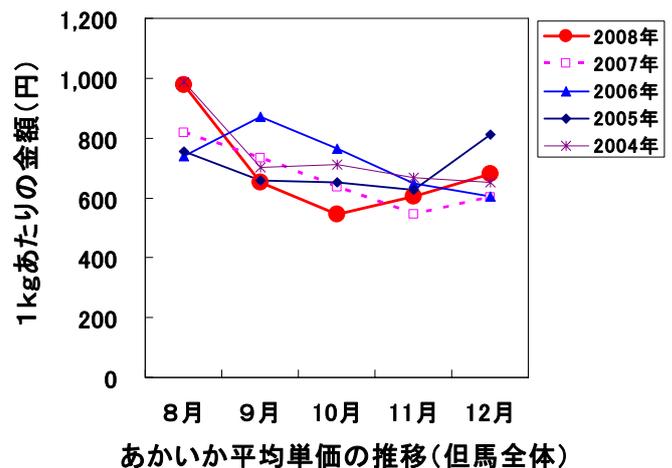
【兵庫県下各漁協(支所)の漁獲】

平成20年(2008年)の漁獲量(速報値)は、津居山港32.3ト(2007年は30.0ト)、竹野浜35.6ト(同33.6ト)、柴山港26.3ト(同19.3ト)、香住町94.9ト(同98.3ト)、浜坂町39.6ト(同53.5ト)、**合計228.8**(同234.6ト)であり、**前年ほぼ同様(×98%)**の水揚げとなりました。

2 価格の推移

近年の月別単価の推移は右のグラフのとおりで、毎年、8-9月には単価が高く、10-11月には徐々に低下します。今漁期は、8月の単価(1kgあたり)は約980円と高かったものの、9-11月には550-650円となりました。

また、単価がやや低調に推移したこともあり、県下全域の漁獲高(速報値)は、合計約1億3,240万円、**前年比約89%(11%の減少)**となりました。



3 漁況予報の結果(的中したかどうか)

当センターでは、毎年7月に「あかいか(ソデイカ)長期漁況予報(予報期間:9~11月)」、10月に「中短期予報(漁況経過と漁期後半の予報)」を公表しています。予報とその結果については以下のとおりでした。

【長期予報(7/23発表)】

- ① **来遊水準**:「ほぼ『昨年並み』の漁獲が見込まれる」との予報
結果:→ ○:漁獲量はほぼ前年同様でした。
- ② **平均漁獲量**:「予報期間中の1日1隻あたりの漁獲量はおおよそ105-110kg程度となる見込み」との予報
結果:→ △:「128kg」と予報の範囲をやや上回る結果となりました。これは、10月上・中旬の漁獲が好調で、1日1隻あたり180kg以上の漁獲が続いたことが原因です(別紙の図-1をご覧ください)。
- ③ **漁場**:「山陰沖に冷水渦(うず)が形成される可能性があり、その場合は漁場が比較的岸寄りに形成される。」との予報
結果:→ ○:漁期当初には但馬沖に小規模な冷水域が存在し、好漁場の位置や海流に影響がありました。

【中短期予報(10/3発表)】

- ① **漁獲物**:「(漁期前半は胴長55cm前後(体重5-6kg)の群が主体)、漁期中後半もしばらくこの群が成長しながら漁獲の主体となる。」との予報
結果:→ ○:10月以降も、この群が主体となりました。11月頃より別の小さな群の加入がありましたが、漁獲の主体にはなりません(別紙の図-2をご参照ください)。
- ② **漁場**:「冷水域は36°N以南にまで大きく接岸することはなく、漁場範囲は例年並み。」との予報
結果:→ ○:漁期後半は、但馬沖は暖水域の範囲にあり、好漁場の範囲は例年並み(沿岸~36°N付近まで)となりました。

*** 今後も、より精度の高い漁況予測を発表していく予定です。引き続きご協力のほどお願いいたします。**

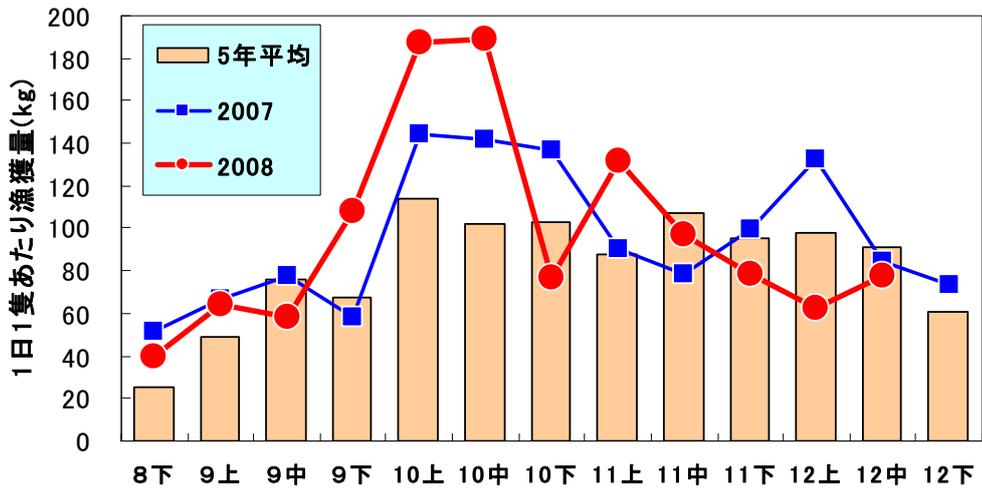


図-1 来遊量指標(但馬漁協香住支所の1日1隻あたり平均漁獲量)の旬別推移

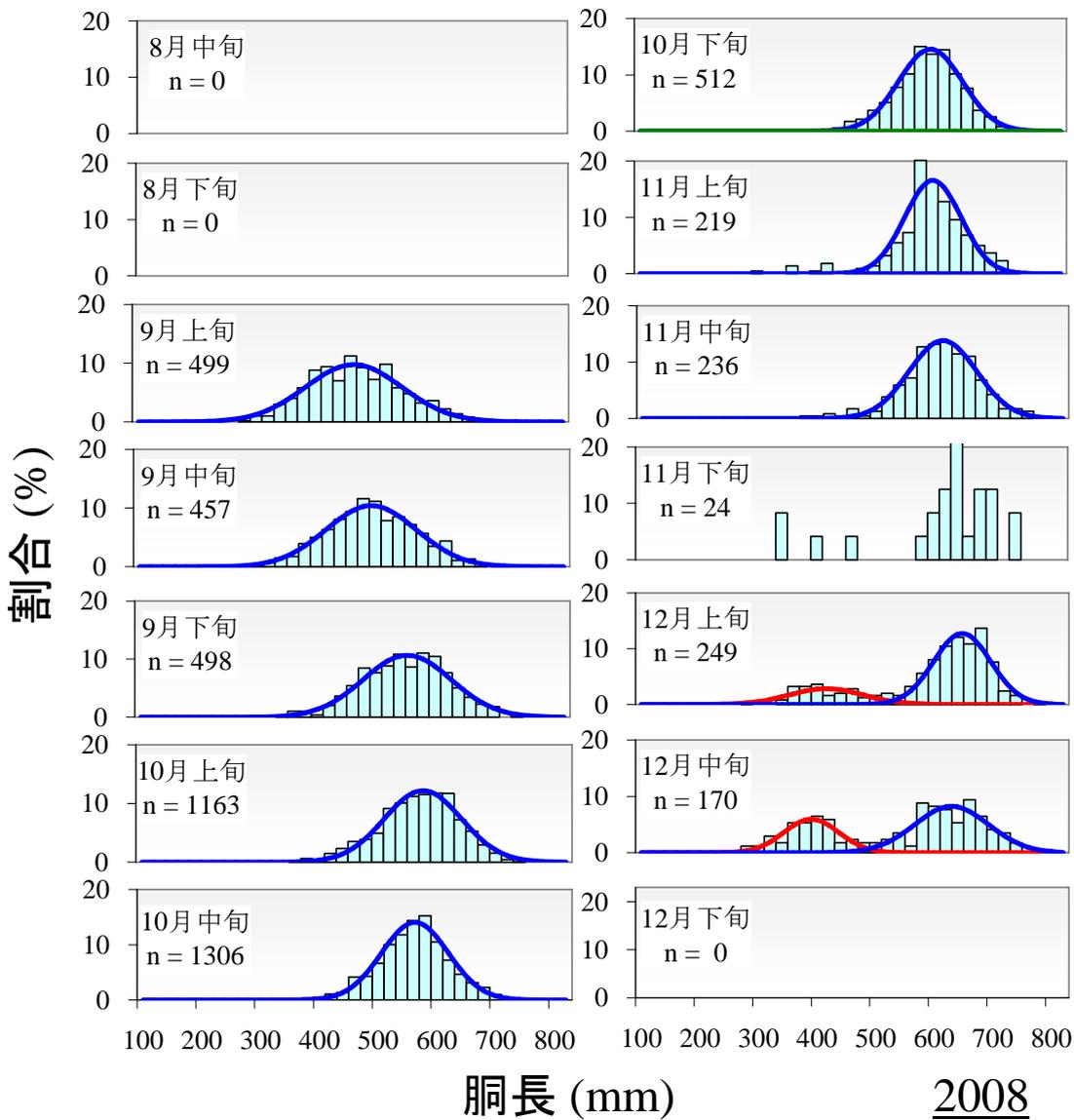


図-2: JF 但馬漁協香住支所に水揚げされたあいか(ソデイカ)の体長組成

* nはその旬に測定したイカの数を示します。

* なお、胴の長さを体重に換算すると、概ね次のとおりとなります。

300mm=1.0kg、400mm=2.4kg、500mm=4.7kg、600mm=8.0kg、700mm=12.7kg、800mm=19.0kg